NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．　企画名：「国際協力フェスタ 2016」における NGO 相談窓口設置
　　【形態：相談対応サービス】
２．　実施者：藤井　花　（一財）北海道国際交流センター
３．　日時：2016 年 12 月 3 日（土）
４．　場所：札幌駅前通地下広場（チカホ）北 3 条交差点広場
　　（札幌市中央区北 3 条西 3 丁目）
５．参加者：相談窓口対応者 12 名（イベント参加者数　述べ 2000 名）
６．実施報告：

毎年開催される「北海道国際協力フェスタ 2016」～Try to Rethink～において、活動紹介ブースにおいて NGO 相談の窓口を開設し、関係団体や市民の方への NGO の相談を行った。国際協力フェスタは北海道内の国際協力・交流に関わる 32 の団体が自分達の活動を紹介する機会でもあり、横のネットワークを広げる場でもある。NGO 関係者に対しては日頃の運営などで悩んでいることやファンドレージングなどについて相談窓口で対応をした。また一般市民に対しては NGO とは何か、また自分達のできる国際協力は何かなどの質問をいただき、様々な国際協力活動の事例や NGO への寄付、フェアトレードなどについて説明をした。多くの方が北海道にこんなにたくさんの団体があることを知らなかったため、今回のイベントでは広く一般の方に国際協力について考えていただく良い機会となった。

７．別添（写真）

2017年1月8日

外務省　国際協力局　民間援助連携室長　殿

ＮＧＯ相談員による出張サービス実施報告書

（特活）名古屋NGOセンター

1.企画名　：国際協力カレッジ2016～国際協力を学び、行動するきっかけをつかもう！～
【形態：相談応対サービス・講演・セミナー・その他（　　）】

2.団体名・出張者氏名：　（特活）名古屋ＮＧＯセンター　門田一美

3.催しの概況：

・主催：JICA中部　共催：（特活）名古屋NGOセンター

・実施日：2016年12月3日(土)　14時00分～16時40分

・場所：JICA中部　なごや地球ひろば（名古屋市中村区）

・参加者：78名、ブース出展18団体

・概要：国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人、そして、ボランティアやインターンを募集中の国際協力団体とのマッチングを行う「ボランティア・インターン　マッチング展」への相談ブース出展を行った。2分間の「NGO相談員アピールタイム」が設けられており、来場者に相談員制度のアピールを行った。その後、相談対応のフリータイムが設けられ、以下の通り相談に対応した。

4.実施内容：　相談対応件数：合計　20件

●主な相談内容は以下のとおり。

・インターンの活動内容や募集している団体の詳細などを知りたい。

・NGOで就職を希望したいが、給料など就労環境について、教えてほしい。

・助産師の資格があるが、海外で活動する際に、どのような方法があるか。

・将来を考え、フランス語を勉強しているので、語学を活かしてボランティアができる団体を紹介してほしい。

・障がい者支援の活動を行う団体を紹介してほしい。

・保健分野でスタディツアーを行っている団体を紹介してほしい。

・イベントの広報、助成金の申請についてアドバイスが欲しい（NGOからの相談）

5.所感および効果：

本イベントは、JICA中部が主催、毎年100名近くが参加し、好評を得ている。実際に、昨年度の参加者が今年は出展NGOのスタッフ側となって活躍する等、目に見える成果が出ている。

今回は、当団体でインターンを行う大学生が、ブースアピールタイム時に発表を行った。そのため、インターンや国際協力への就職を希望する学生が多くブースに訪れ、学生から身近な視点でアドバイスをすることができた。

また、例年より、事前に下調べをし、高い関心を持つ参加者が多いように感じた。地域の特に中小規模のNGOでは、インターネットに出ている情報が少ない。例えば、スタディツアーに関して、インターネットでは情報が信頼できるかわからないため、相談員ブースで尋ねたいという方もいらっしゃった。相談員として常に情報を把握し、適切に提供できるように情報収集などに力を入れていきたい

と思う。

写真上段:アピールタイムで NGO 相談員の紹介を行う
写真中段:ブースにて相談対応を行う
写真下段:イベント「マッチング展」全体の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：講演会　「人権教育」
２．実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン　松本謡子
３．日時：2016 年 12 月 5 日（月）13:05-14:45
４．場所：新城市立作手中学校　愛知県新城市作手高里ブック田 5
５．参加者：中学 1～3 年生 54 名、教諭 12 名
６．実施報告：

NGO 相談員として、中学 1～3 年生 54 名、教員 12 名を対象に、「人権教育」として途上国の子どもたちが直面している課題について、特に難民と水衛生を中心に紹介した。前半は世界の子どもたちが直面する課題を紹介し、さらに難民の現状と水衛生に焦点を当て、シリア危機を中心に難民の子どもたちが置かれている現状を紹介した。また、安全な水へのアクセスが困難な子どもたちや水衛生課題が子どもの命を奪う要因になりうる現状を紹介した。後半は体育館へ移動し、難民の子どものケーススストーリーを元にしたロールプレイで難民の子どもを中心としたコミュニティの登場人物の役割カードを教材にグループごとに学びを深め、難民の子どもたちの抱える課題や解決方法について意見交換を行った。次に途上国で使用している 5 種類のタンクに実際に水を入れたものを使って水汲み体験を実施し、主体的に途上国の子どもたちを取り巻く水衛生の課題に目を向けた。

７．所感：

NGO 相談員が難民の現状や水衛生の課題について、写真やケーススストーリーを交えて具体的に紹介することにより、中学生が世界に目を向け、国際協力へ理解を深める機会としてもらうことができた。特に後半は難民のロールプレイや水汲み体験をグループごとに実施し、参加者が主体的に学びを深め、意見交換を行うことができた。「難民の人々は自分ではどうしようもない問題に振り回されている」「自分はどれだけ幸せな生活にぜいたくを言っているんだと思った」「同世代の人たちのために何かしなくてはという気持ちになった」等の感想も寄せられ、国際協力を身近に捉え、国際協力への積極的な関わりを持とうという姿勢が見られた。

８．別添（写真）

講演している様子　　途上国で使用しているタンク使って水汲み体験を実施した様子

外務省 NGO 相談員　出張サービス報告書

相談員　公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

＜概要＞

企　画　名：国連フォーラム関西 12 月勉強会
イベントの種類：講演
実 施 日 時：平成 28 年 12 月 9 日（金）18 時 30 分～21 時 00 分
出張者氏名：大豊　盛重
主　　催：国連フォーラム関西
場　　所：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405 教室
〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町 19-19 アプローズタワー14 階

＜実施内容＞

主に学生や大学院生が参加する「国連フォーラム関西 12 月勉強会」に、大豊がゲストスピーカーとして登壇した。今回の勉強会は、2016 年 8 月に開催された TICAD VI を受け、アフリカ開発を 1 つのケースとして扱い、「日本とアフリカの関係」と「ビジネス」の 2 視点から、開発支援の今後を考えるものであった。当会は、日本 NGO 連携無償資金協力を受けて実施したマラウイとケニアでの事業を例に挙げながら、日本の NGO が行う草の根レベルでの農村開発について講演し、その後のパネルディスカッション、質問会に対応した。

＜集客人数または相談対応件数＞

講演：約 40 名

＜所感及び効果等＞

今回講演を実施した勉強会では、前段階として SDGs や TICAD、国連の活動などに関心を持ち勉強会を重ねてこられた参加者が対象であった。またゲストスピーカーとして外務省や国連、ユニセフなどの勤務歴を持つ方がおられるため、日本の NGO の草の根活動を重点的に紹介した。日本の市民活動の役割や日本 NGO 連携無償資金協力で行った現地での活動について解説した。参加者には各国政府や国連などが目指す国境を越えた視点の国際協力と現場の NGO の草の根の視点の両方の必要性が伝わったと感じる。マクロの視点とミクロの視点の食い違いをなくすためにこそ SDGs という道しるべが必要であるとも感じた。質疑応答では、参加者から、日本の循環型農業の発想をアフリカで導入したことについて、高い関心をいただき日本の NGO の独自性を理解いただけたと感じた。

＜活動風景（写真記録）＞

講演の様子。現地の写真を使って講義を行った。

質疑応答はゲストスピーカーごとに分かれて実施する時間もあった。

平成 29 年 1 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長　殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター
代表　新垣　誠

NGO 相談員による出張サービス実施の報告

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り企画し、実施いたしましたので報告いたします。

1．企画名： 2016 年国際理解・開発教育指導者養成講座　世界を伝えるプロになろう
～教材持ちよりセミナー～
2．出張者氏名：上原真紀
3．主催者団体名：JICA 沖縄国際センター
4．実施日：平成 28 年 12 月 10 日（土）10:00～16:00
5．実施場所：JICA 沖縄国際センター　（沖縄県浦添市前田 1143-1）
6．参加者：11 名
7．実施報告：教員対象の国際理解・開発教育指導者養成講座の中で、SDGｓの説明やフェアトレードについてのワークショップ、取扱店舗・商品紹介、フェアトレードチョコレートの試食や、お茶・コーヒーの試飲、などを行った。ワークショップでは、NPO 法人 ACE の「このＴシャツはどこから来るの？－ファッションの裏側にある児童労働の真実-」を行った。映画『トゥルーコスト～ファストファッション　真の代償～』の予告編を上映し、12 月 21 日まで県内でこの映画を上映している映画館も紹介した。フェアトレードという言葉は耳にしたことはあるが、はっきりとしたことは知らなかったという教員、知ってはいても店に行って商品を購入したことはない教員などがいた。試食用のチョコレートのおいしさに舌鼓を打つ参加者、ワークショップの内容に大きくうなずく参加者もいて、理解は深まったと感じられた。今回の企画ができたことは、沖縄県内での国際協力活動を広げ、一人一人が持続可能な社会をつくるという意識を少しでも高められ効果的であったといえる。

8．別添（写真）

NGO相談員出張サービス実施報告書

1．　企画名：考える国際協力セミナー＆鹿児島県の国際協力機関への広報活動
【形態：相談応対サービス・講演・セミナー・その他（講演＋広報）】

2．　実施者：（（特活）NGO福岡ネットワーク
3．　日時：2016年12月11日（日）13時00分～16時30分（講演）
　　12月12日（月）10時00分～18時00分（広報）
4．　場所：かごしま県民交流センター４階　大研修室第３（講演）
　　（鹿児島市山下町14番50号）

5．　参加者：15名
6．　実施報告：
　本イベントは、国際協力に関心のある中学生から大学生を対象に、実際に国際協力に関わっている講師の先生方からのお話を聞いたり、集まった参加者の仲間達とゲームなどを通して国際協力について学ぶ企画である。参加者は中学生や高校生など比較的若い年代が多く見られたが、皆熱心に話を聞いてくれた。ワークショップにおいても積極的に様々な意見が出ていて、改めて学生に対してこのようなイベントを実施することの重要性を感じた。当団体では、大学生向けの事業はいくつかあるものの、中高生向けのイベントはあまり経験がないため、今後の事業の計画としてそういった中高生向けの企画を実施することも大事だと感じる契機となった。
　また、2 日目の広報活動に関しては、2 名で手分けして広報活動を行い、県内の NGO やボランティアセンターなどを訪問した。これまで団体名や個人名は知っていたものの、直接出会う機会のなかった方々と実際に話をし、交流ができたことは大きな成果であった。また、鹿児島では青年海外協力隊 OB・OG のネットワークが根付いていることを認識し、国際協力活動の性質にもそれぞれ地域性があることに気付いた。当団体として鹿児島への出張は久しぶりであったが、このように定期的に出向き、活動の様子を尋ねたり、ネットワーク NGO としての様々な協力の提案を行ったりしていくことは、等団体にとって非常に重要な役割であると改めて気付かされた。

7．別添（写真）

セミナーでの講演の様子

DANKADANKA 訪問の様子

平成 28 年 12 月 13日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

（団体名）公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企 画 名:「第 1 回 NPO/NGO 合同就職説明会
—ソーシャルセクターに関心がある人材と NPO/NGO のマッチング—」
※出張形態:相談員ブース

2. 出 張 者:上石景子((公財)PHD協会職員)

3. 実 施 日:2016年12月12日(月)19:00～21:00

4. 実施場所:神戸市勤労会館 多目的ホール
(兵庫県神戸市中央区雲井通 5-1-2)

5. 対象者:NPO/NGO への就職希望者及び NPO/NGO の出展団体職員 計 14 名

6. 実施報告:
今回の出張サービスでは、兵庫県の市民活動団体のネットワーク組織である「ひょうご市民活動協議会(ひょうごん)」が人材募集をしている NPO/NGO の合同就職説明会を開催し、そこに NGO 相談員ブースを出展した。参加者は NPO/NGO への就職希望者 7 名及び NPO/NGO の出展団体職員 7 名の計 14 名であった。
冒頭に NGO 相談員制度とブースの説明をし、当会に限らず国際協力 NGO において就職・インターン・ボランティア等を考えている方の相談にお応えする旨をお伝えした。
プログラムの中にソーシャルセクターについての講義があり、NPO/NGO への就職における労働条件・賃金などのネガティブな面や、働きがいなどのポジティブな面について説明があった。
実際の相談員ブースにおける質問は、主に NGO 相談員制度についての質問、就職についての質問、NGO の活動についての質問、インターンやボランティアについての質問など様々であった。国際協力 NGO の就職に関する相談においては、賃金や労働条件などの待遇面について懸念があるとの声があったり、また、採用条件に海外経験や語学力が問われるのではとの声もあり、応募に不安を感じることが多いことがわかった。労働条件などに関しては底上げをしようと NGO 業界全体で取り組んでいること、採用条件に関しては海外経験や語学力というよりも NGO とのコネクションやインターン・ボランティア経験などが重視されやすいことなどをお伝えし、不安が少しでも解消されるように努めた。
今後もこのような説明会に参加し、人材と NGO 業界とのマッチングを行うことで、国際協力人材が活躍できる場を提供することの必要性を感じた。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を3枚添付

①相談員ブースの様子

②相談対応中の様子

③会場全体の様子

平成 29 年 1 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

（団体名）認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので報告致します。

記

1． 企画名：平成 28 年度「難民ワークショップ」
【形態：相談応対サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ ）】
2． 出張者氏名:阿部眞理子
3． 依頼元／主催等団体名：東北学院大学
4． 実施予定日時：平成 28 年 12 月 13 日（火） 13 時 00 分～15 時 00 分
5． 実施場所：東北学院大学土樋キャンパス 5 号館（仙台市青葉区土樋1丁目 3-1）
（1）会場借料：有・無
6. 企画の概要

仙台にある東北学院大学において、学生・教職員約 69 名を対象に、地域から地球上の現状や課題などを見つめ共有し理解と認識を深めることを目的として、難民を知るワークショップを実施した。

このワークショップは、各グループがシリアに住む 1 組のクルド系シリア人の家族になり、紛争に巻き込まれ難民となっていく過程及びそこで起こる様々な問題を模擬体験していくもの。2013 年からイラク・クルド自治区で IVY が行っている難民支援活動（JPF・N 連事業）をもとに、JICA の元シリア協力隊員の協力を得て制作したもの。

当初の予想より多い 69 名の学生が参加したため、教職員はワークショップには参加せず見学することとなった。作成に関わった元シリア協力隊員が当日サブファシリテーターとして協力してくれたことにより、予定の３倍以上の人数にも対応出来た。

ワークショップ後半では、現地で行われている IVY の難民支援活動（JPF・N 連事業）を紹介することにより、ODA や日本の国際協力活動について説明し理解の促進を図ることが出来た。

終わったあと、学生から NGO や青年海外協力隊への参加について質問があり、東北においても国際協力を仕事として考える学生が増えていることを感じた。

＜学生が記入したふりかえりワークシートからの抜粋＞

➢ 印象に残ったことは？

・ キャンプに逃げることが出来たからといって、安心ということはないこと

- シリアの女性は、買い物も男性と行くこと、一人では外を出歩かないこと
- 内戦が始まる前のシリアの人々は普通の生活をしていたこと
- キャンプ外に住む難民の数が多いこと

➢ 気づいたこと・もっと知りたいことは？

- 難民キャンプに入れたとしても、決して楽な生活が待っているわけではないこと
- 物資の支援だけでなく、仕事へのサポートももっと充実させるべきだ
- 難民の原因となる紛争をなくすためにはどうしたらいいのか？
- 難民の子どもたちに教育を受けさせないと、難民申請書も書けない大人になってしまう
- 各国の支援についても気になった
- 考えていたより、難民の方が大変なことがわかった
- 今、学生のわたしに出来ることはなんだろう？

全体として、難民として他国に逃げたからといって安全・安心とは言えないことに気付かされた、さらに難民について知りたいという声が多かった。

以上

東北学院大学でのワークショップ　当日写真

東北学院大学土樋キャンパス正門付近	ワークショップが始まる前にODA・NGO相談員について説明
難民とは？	難民キャンプに到着後の生活を知る
69名の参加者　熱心に議論	終了後、学生さんからの質問・相談に対応 左側が元シリア協力隊員の小笠原さん

NGO 相談員出張サービス実施報告書

作成日：平成 28 年 12 月 27 日
特定非営利活動法人
関西 NGO 協議会

1．企画名：
「ワン・ワールド・フェスティバル forYouth～高校生のための
国際交流・国際協力 EXPO2016～」での相談対応

【形態：相談応対サービス】（複数団体による合同出張サービス）

2．実施者：
（公財）PHD 協会　坂西卓郎／上石景子
（公社）日本国際民間協力会 NICCO　大豊盛重
（特活）関西 NGO 協議会　榛木恵子／古寺瑞代

3．日時：平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）10：00～17：00

シフト：
＜ブース設営・準備、相談対応＞
10：30~11：00　古寺（関西 NGO 協議会）0.5h
＜相談対応＞
11：00~13：00／坂西（PHD 協会）2.0h
13：00~14：00／榛木（関西 NGO 協議会）　1.0h
14：00~15：00／古寺（関西 NGO 協議会）1.0h
14：00~17：00／大豊（日本国際民間協力会 NICCO）　3.0h
15：00~17：00／上石（PHD 協会）2.0h
＜撤収、片づけ＞
17：00~17：30／　古寺（KNC）0.5h
※相談内容に応じて各相談員が適宜時間を延長し対応した、詳細は各団体の業務日誌に記載。

4．場所：
大阪国際交流センター（アイハウス）・2 階ロビーにて相談ブースを設置
大阪府大阪市天王寺区上本町 8―2―6

5. 参加者:

当日イベント参加者は高校生を中心に約 1,200 人

当日相談員ブースで対応した相談者数は 26 人、件数は 36 件であった。

6. 実施報告:

＜実施内容＞

ワンフェス forYouth の会場にて「NGO 相談員ブース」を設置し、近畿ブロックの 3 団体で 10:00 から 17:00 の間シフトを組み、各時間帯おいて相談員 1、2 人が相談対応を行った。プログラム全体の参加者総数は高校生を中心とし、大学生、高校教員、NGO 関係者、一般参加者を含め延べ 6,000 人（参加者数およそ 1,200 人）、ブースを訪れた相談者は 26 人であった。

高校生主体の国際協力イベントであることから、主に高校生と高校教員から国際協力や開発教育、NGO の活動に関する質問、若い世代の国際協力活動や団体設立に関する相談事項が寄せられ、多様な経験と事業内容を有する複数団体で対応した。

＜所感＞

2014 年度、2015 年度と継続して NGO 相談員ブースを設置し対応をしているが、年々利用者が増える傾向にあり、近畿ブロック 3 団体だけでは対応が難しくなっている。しかしながら、原因の一つは、本 EXPO への NGO 関係者の参加が増えたため、相談員ブースに挨拶に来られる関係者が場所を占領しがちとなる点も挙げられる。また、ブース付近を通行する不特定多数の来場者へのチラシの配布等を通して、相談員制度の広報・普及促進に努める予定であったが、十分な人員を配置することができず実施できなかった。次年度以降については、ブースの横に NGO サロン的なものを設置し、NGO 関係者の情報共有の場とし、相談員ブースについては、高校生や高校教員を優先できるよう考慮したい。また、次年度からは、参加高校の教員に、事前に相談員ブースの出展について事前にメールやチラシにて積極的に周知し活用を促したい。

＜優良相談内容＞

視察に訪れた高校教員から、授業のなかに、国際協力やグローバル課題について高校生が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングを取り入れたい、また、そうした学習内容について同世代の高校教員や高校生たちと積極的に交流を図り、情報交換を行いたいという相談に対応。次年度以降、ワンフェス forYouth に参加したいといった希望もあり、参加方法だけではなく、Youth の運営委員会が、高校教員や NGO 職員で構成されていることを伝え、関西地域の NGO の活動や国際協力の潮流、参加高校の教員

からは、参加の動機や参加した生徒たちの変化、学校内での対応など情報収集を行うことをアドバイスする。また、また、NGO 相談員制度と出張サービスについても説明し、近畿ブロックの 3 団体を積極的に活用することを勧めた。

7. 別添(写真)

近畿ブロック相談員でシフトを組み多様な相談内容に対応した。
高校教員から開発教育、NGO の活動について相談があり、また、高校生から(国際協力分野における)キャリア相談があり対応した。

以上